

障がい者によるまちづくりサポーター制度

平成25年度活動報告書

(活動テーマ：防災・災害時の支援体制について)

平成26年3月

札幌市障がい者によるまちづくりサポーター 一同

もくじ

はじめに	3
さぽーたー ^{さ ぽー たー} の活動状況 ^{かつどうじょうきょう}	
(1) 活動状況一覧 ^{かつどうじょうきょういちらん}	4
(2) 白石区防災訓練の参加報告 ^{しろいしくぼうさいくねんさんかほうこく}	5
(3) 意見交換会の実施報告 ^{いけんこうかんかいじっしほうこく}	7
防災・災害時支援 ^{ぼうさいさいがいじしえん} についての検討内容 ^{けんとうないよう}	
1 目指すべき札幌市の姿（目標） ^{めざすべきさっぽろしすがたもくひょう}	9
2 課題 ^{かだい} の検証 ^{けんしょう}	
【視点1】日頃の備え ^{してんひごろそなえ}	10
【視点2】災害発生時の行動 ^{してんさいがいはっせいじこうどう}	12
【視点3】避難場所での行動 ^{してんひなんばしょこうどう}	13
3 札幌市にしてほしいこと ^{さっぽろし}	15
4 市民 ^{しみん} にできること・わたしたちにできること	16
おわりに	17
さぽーたー ^{さ ぽー たー} 名簿 ^{めいぼ}	18
意見提出用紙 ^{いけんていしゅつようし}	19

はじめに

今年で東日本大震災並びに、福島原子力発電所の事故が発生して3年が経過し、今では震災の話は、マスコミでも取り上げられる機会は減り、復興が進んでいるかのような印象を感じます。

しかし現実とは、異なります。私は、震災後すぐに全国の仲間と共に岩手県、福島県を訪問。昨年、宮城県を訪問しました。都市部の一部の地域では、道路整備が施され以前の生活を取り戻しつつあるように見えていましたが、昨年訪問した石巻市は、絶句してしまう状況のまま何も手つかずの状態でした。最も深刻なのは、福島県です。大震災そして原子力発電所の事故と二重の負担を強いられています。

国では、災害対策基本法（※1）が改正され、各自治体でも避難行動要支援者リスト（※2）の作成が義務づけられるようになりました。当サポーターでは、平成13年10月に札幌市が策定した「災害弱者対応防災マニュアル」の改訂を念頭に置いて取り組みました。マニュアル改訂に向けて、私たちは、大きく3つの取り組みをしました。

- ①在宅障がい者避難訓練の参加、②難病の方々との意見交換、③発達障がい関係者との意見交換

この内容の1つ1つは、以降の報告書にまとめられています。この報告書をきっかけに障がい当事者が町内会等に参画し、どの地域でも障がい者が社会の一員として地域の皆さんと一緒に避難訓練等に取り組む場所が増えることを期待しています。

障がい者によるまちづくりサポーター副代表 岡本 直樹

（※1） 災害対策基本法…災害予防や発生時の対応などを定めた法律

（※2） 避難行動要支援者リスト…災害がおきて避難する時に支援が必要な人を記載した名簿

サポーターの活動状況

平成25年度の活動テーマ：防災・災害時の支援体制について

(1) 活動状況一覧

<打合せ会議>

第1回	平成25年4月25日
第2回	5月31日
第3回	6月25日
第4回	7月30日
第5回	8月27日
第6回	9月24日
第7回	10月22日
第8回	11月26日
第9回	12月24日



第10回	平成26年1月28日
第11回	2月25日
第12回	3月25日

<活動テーマに基づく取組>

平成25年8月29日	白石区防災訓練への参加
平成25年12月24日	難病患者団体との意見交換会の開催
平成26年1月28日	発達障がい者団体との意見交換会の開催

<その他（活動テーマ以外の取組）>

平成25年11月6日	障がい者支援施設入所者（身体）への聴き取り調査
平成25年11月13日	障がい者支援施設入所者（知的）への聴き取り調査
平成26年4月25日	活動報告書を市長に提出

(2) 白石区防災訓練の参加報告

① 防災訓練の日時・場所

日時：平成25年8月29日（木）9：30から11：30まで

場所：東白石小学校

② 体験した訓練



おうきゆう てあて くんれん
応急手当訓練

（けがをしたときのために包帯を
ま くんれんしゅう
巻く練習をしています）



しょうか くんれん
消火訓練①

（しょうかき つか かた おそ
消火器の使い方を教わります）



しょうか くんれん
消火訓練②

（じっさい しょうかき つか
実際に消火器を使ってみます）



えんどう つうか くんれん
煙道通過訓練

（けむり みち おと
煙につつまれた道を通ります）

このほかに、きゅうしゅつ きゅうごくんれん すいぼうくんれん すいがい はっせい ととき
「すなぶくろ」を積みくわんれん けんがく
（すなぶくろ）を積みくわんれん けんがく
などを見学しました。

③ サポーターの意見・感想

今回、サポーターは、応急手当、消火器による消火作業、煙道通過の3つの訓練を体験しましたが、いずれも初めての体験であり、頭ではわかっていたつもりでも、実際に動いてみると違うこともあり、良い体験になりました。

3つの訓練のほかにも、砂袋を作る作業や、バケツリレー、担架を使つての救出作業などを見学しましたが、見ているだけではなく、これらも是非、一緒に参加してみたかったと思います。

また、今回、参加した障がい者は、私たちサポーターを含めた数名だけでしたが、災害弱者（※1）と言われる人たちは、みんなこのような訓練を体験したほうが良いと感じました。

今後は地震や台風による火災・洪水（※2）等だけでなく、雪害（※3）や原子力発電所の事故など、さまざまな場面を想定し、地域でどのように備えれば良いのか、年に一度くらいは、障がい者を含む全ての住民が参加した訓練を行い、確認できると良いと思います。

今回、私たちが防災訓練に参加したことが、障がい者が地域の防災訓練に参加していく、一つのきっかけになればと思います。

（※1） 災害弱者…災害がおきたときに自分だけで避難するのが難しい人

（※2） 洪水…大雨が原因で陸地が水びたしになること

（※3） 雪害…雪による災害

(3) 防災・災害時支援に関する意見交換会の実施報告

① 難病患者団体との意見交換会

日時：平成25年12月24日（火）

参加人数：サポーター6人、団体から7人



<主な意見>

●難病といっても人によって違うし、症状に波があることを理解してもらって避難場所での備蓄や環境整備をしてほしいです。

●薬が切れると動けなくなるので、大震災後は1か月分を備えています。外出時にも3日分を持つようにしています。

●外出時には酸素ボンベを使っていますが、予備の酸素ボンベが必要で自分で用意しなければなりません。

●人工呼吸器が必要な場合、電気が止まると命にかかわる場合があります。また、同じ病気でも、たん吸引器を使っている場合もあり、必要なものが違ってきます。

●階段を一人の介助者で降りることができる車いすがあります。そのようなものが市営住宅などの集合住宅に用意されていると、災害時に安心です。

●重いものを持つのが難しく、災害発生時に一人では身動きが難しいです。サポートしてくれる人がいると助かります。

●出血が致命的な難病もあります。避難してけがをして血が止まらないという心配があるので、むしろ家にいたほうが良いかもしれません。その場合、地域の支援も必要です。

●床に座ることができないため、避難場所にいすやベッドが必要です。また、トイレは洋式でなければ使えない人がいます。

●感染症により病気が悪化することがあります。避難場所にはいろいろな感染症の人もいますので、その辺を考慮して避難場所を設定してほしいです。

② 発達障がい者団体（家族会）との意見交換会

日時：平成26年1月28日（火）

参加者数：サポーター6人、団体から6人

<主な意見>

●住んでいるマンションの避難訓練に参加しています。また、日頃から近所の人たちと顔なじみになっておくよう、心がけています。

●日頃関わっている複数のサービス事業所と、災害が起きたときの行動のとり方について、共通理解をするための情報共有を進めています。

●日頃からバッグに、家の電話番号や所属先などを書いたメモを入れて持ち歩くようにしています。ただ、自分から見せることができないので、周囲からの働きかけが必要です。

●いつもの環境と違うとパニックになったり、感覚に敏感なので、災害時にひとりで落ち着いて対応できるか心配です。

●外で災害にあった場合は、その集団のリーダーの指示を聞くように本人に言ってあります。

●避難場所での生活は難しいです。音に敏感なのでざわざわした所には絶対に居られません。危険でも自分の家にいるしかありません。

●生活介護など、ふだん使っている事業所であれば1～2泊は良いかもしれませんが、全く知らない場所で過ごすのは難しいです。

●早めに医療チームなどに来てもらって、少人数で落ち着ける場所を提供してほしいです。

●避難場所では、本人も周りもストレスが高まります。日頃通っている養護学校が避難場所になれば、もう少し長く過ごせるのではないのでしょうか。

1 目指すべき札幌市の姿(目標)

大災害が発生したり、孤立死がおきたりして、障がいのある人が地域で暮らすことに不安を持っています。

災害が起こったとき、障がいのある人はより被害を受けやすく、避難するときに手助けが必要な人もいます。

災害から障がいのある人を守るためには、本人や家族、地域、行政がそれぞれ防災に関する意識を高め、日頃から備えをし、また災害が起こったときに、地域で助け合う環境をつくっていく必要があります。



2 課題の検証

【視点1】日頃の備え（●は取組の方向）

【課題1】地域や町内会などでの、災害弱者の把握が十分ではありません。

【課題2】地域や町内会に、自分のことを知られたくないという人もいます。

●役所で作る、手助けが必要な人の名簿などを活用しながら、役所と地域が連携し、本人の協力を求めています。

●ふだんから「ここにいる」ということを周りに伝えることの必要性を当事者から訴えます。例えば、障がい者講師や大震災にあった人などの講演を通じ、はたらきかけをします。

【課題3】「災害弱者対応マニュアル」があまり知られていません。

【課題4】「災害弱者対応マニュアル」や「防災マップ」は、書いてあることが難しいことがあります。

●地域や関係団体、事業所、要援護者などに配るほか、区役所窓口においておいたり、研修会や講演会などの行事を通じたはたらきかけをします。

●わかりやすさのチェックは当事者が参加して行い、さまざまな障がいに配慮します。

●漢字などにはルビをふります。

●防災マップは、「車いす用トイレ有り」など、避難場所がどのような障がいに対応できているのか分かるようにします。例えば、防災の勉強を兼ねて、小学校の子どもたちにマップ作りを手伝ってもらう方法もあります。

【課題5】 地域での防災訓練に、障がいのある人があまり参加していません。

- 障がいのある人に、町内会への加入や地域活動への参加を促します。
- 地域と連携した避難訓練の実施を施設に促します。

【課題6】 障がいによっては、配慮が必要な人がいます。例えば、自閉症では言うてはだめな言葉がある人がいます。

- 「緊急連絡先カード」を団体に試験的に使ってみます。カードは紙だとやぶいてしまう場合があるので、ラミネートなどの工夫をします。
- 自閉症をはじめとするさまざまな障がいを市民の人たちに理解してもらう取組も進める必要があります。

【課題7】 避難場所については、介護や医療的ケアで必要な物品や、ガソリンなどの備蓄が必要です。

- 役所が必要な物品を決めるときは、障がいのある人の意見を聴きます。
- 携帯電話の機能など様々な方法を使って、必要物品の情報提供をします。



【視点2】災害発生時の行動

（●は取組の方向）

【課題1】外出時に地震などがあった場合、自分たちでどうしたら良いかわかりません。

【課題2】外出時にもよりの避難場所を探すのが難しいです。

●近くに人どうしで助け合うことができるよう、障がいに対する理解を広める必要があります。

●地下鉄駅や地上にある地図などに避難場所を表示し、いざという時にわかるようにします。

●施設だけでなく、通所サービス事業所や養護学校なども避難場所として活用を促します。

【課題3】大震災のとき、周りに迷惑をかけるから避難場所には行かない、あるいは、騒がしい場所では過ごせないため行けないという人がいます。

●避難場所で過ごす人たちに理解を求めます。また、静かな場所で過ごせるよう環境を整えます。

●自分の家に留まった人への支援方法も検討します。

【課題4】緊急時に手話通訳（触手話を含む）などの情報手段が確保できると良いです。

●区レベルで、災害時には例えば聴覚障がい者と手話通訳者が1か所に集まるような体制づくりに取り組みます。

●日頃からいろいろなかたちで、障がい者の手助けをしていただけるような災害ボランティア等のネットワークづくりを検討します。



触手話・・・話し手が手話を表し、盲ろう者（視覚と聴覚に重度の障がいがある人）が、その手に触れて読み取る方法

【視点3】避難場所などでの行動

（●は取組の方向）

【課題1】避難場所で落ち着いて過ごせない人もいます。

●配慮が必要であることを、家族や避難場所のスタッフから、避難場所で過ごす人たちに伝えます。

●イヤーマフ（※2）など静かな環境にする工夫や、小さな教室の活用も検討します。また、困ったことを書くことができるよう、ホワイトボードなどを活用します。

【課題2】本当に福祉避難場所に移れるのか心配です。

●福祉避難場所（※1）となる施設などで、最低限のベッド数を確保しておきます。また、病院の空きベッドなどの活用も検討します。

●福祉避難場所の設備の情報公開をします。

（※1）福祉避難場所…高齢者や障がい者など災害時に支援が必要な人に配慮した避難場所

（※2）イヤーマフ・・・音を消す耳あて



イヤーマフ



【課題3】 障^{か だ い}がいのある人^{し ょ う}が支^{ひ と}援^{し え ん}される側^{が わ}だけでなく、避難^{ひ な ん ば し ょ}場所^しで支^{し え ん}援^{が わ}する側^{ま わ}にも回^よれると良^よいと思^{おも}います。

●避難^{ひ な ん く ん れ ん}訓練^{つ う}などを通^とじて、ど^このよう^{ち い き}な事^{こと}ができるのかを地^ち域^{い き}の人^{ひと}たち^{つ た}に伝^{つ た}えてい^いきます。

【課題4】 避難^{ひ な ん ば し ょ}場所^かや仮^か設^せ住^じ宅^{う た く}（※1）がバ^ばリ^りア^あフ^ふリ^りー^か化^か（※2）されてい^すないと、そ^そこで過^すご^ごすこ^ことがで^できま^ません。

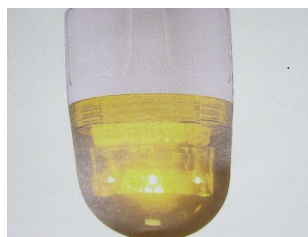
●ス^すロ^ろー^ープ^ぷや点^て字^んブ^ぶロ^ろッ^っク^く、回^か転^い灯^{ん と う}（※3）など^なを整^{せい}備^びし^しま^ます。

●仮^か設^せ住^じ宅^{う た く}の設^せ計^{けい}を決^きめる際^{さい}には、障^{し ょ う}がい^{ひ と}のある人^{ひと}に参^{さん}加^かし^して^ても^もら^らい^いま^ます。

（※1） 仮^か設^せ住^じ宅^{う た く}…災^{さい}害^{がい}で住^すむ場^ば所^{し ょ}がな^なくな^くな^なった人^{ひと}が仮^{ひ と}に^{かり}住^すむ家^{いえ}

（※2） バ^ばリ^りア^あフ^ふリ^りー^か化^か…生^{せい}活^{かつ}して^{して}い^いくう^こえ^まで困^こるこ^ことを^と取^とり^の除^ぞくこ^こと

（※3） 回^か転^い灯^{ん と う}…回^か転^いする^で電^で灯^{ん と う}



回^か転^い灯^{ん と う}



3 札幌市にしてほしいこと

障がいのある人に対する理解を広める取り組みをさらに充実させてください。

また、防災対策の検討や、マニュアルの整備などにあたっては、障がいのある人に検討会議などに参画してもらう、あるいは意見を聴くなどしてください。

さらに、災害がおこったときには、地域への個人情報の提供など、状況に応じた柔軟な対応ができるよう検討してください。

●障がいを理解した災害ボランティアコーディネーター（※1）の養成研修を札幌市独自で取り組んでください。

●町内会と連携して、区や地域で実施する避難訓練に、障がいのある人が参加するよう促してください。

●それぞれの避難場所が、どのような障がいに対応した設備が整備されているのか、防災マップへ記載するなど、分かるようにしてください。

●外出した時でもどこに避難すれば良いかわかるよう、地下鉄駅や地上にある地図などに避難場所を表示してください。

●施設だけでなく、通所サービス事業所や養護学校なども避難場所として活用できるよう検討してください。

●福祉避難場所となる施設に、空きベッドを確保してください。また、病院の空きベッドの活用も検討してください。

●仮設住宅は、障がいのある人があんしんして暮らせるようバリアフリー対応としてください。また、仮設住宅の設計を決める際には、障がいのある人の意見を聴いてください。

（※1）災害ボランティアコーディネーター・・・災害が起きた時に、支援を求めている人と、ボランティア活動を希望する人とをつなぐための調整などを行う人

4 市民にできること・わたしたちにできること

●障がいのある人に対し、町内会活動や避難訓練への参加を促しましょう。また、障がいのある人も、そのような活動に積極的に参加しましょう。

●避難場所では、車いすを利用している方のために段差をなくすなど、障がいのある人への配慮が必要であることを知っておきましょう。

●障がい者団体や事業所は、地域との連携による避難訓練のほか、いろいろな地域交流を進めましょう。

●障がいのある人は、自分が住んでいる地域の避難場所を知っておきましょう。また、避難したときに必要となるものを日頃から備えておきましょう。

●障がいのある人も、災害がおこったときに、手伝えることや支援できることなどについて考えてみましょう。

【みなさんも考えてみてください】



おわりに

この一年、防災・災害への備えというテーマで、話し合ってきました。

さまざまな障がいがあると、災害が起き、避難するときや、また、避難所での困難はたくさんあると予想されますが、そのために何ができるのかを考えると、普段からそれぞれの障がいを理解してもらうことと、周りの人との親しい関係づくりが一番大切な事であるということがわかってきました。

私たち障がい者もまちづくりに関わり、障がい特性を知ってもらい、困ったときには助け合える関係を築くことの大切さを感じています。それは、障がいの有る無しにかかわらず、また災害時だけではなく日常生活においても、孤立を防ぎ何かあったときには声を掛け合える関係になるのだと思います。

障がいがあるからといって助けてもらうばかりではなく、自分たちに何ができるかをこれからも考えていきたいと思っています。

障がい者によるまちづくりサポーター 一同

第5期 障がい者によるまちづくりサポーター 名簿

任期：平成24年5月1日から平成27年4月30日

氏 名	障がい種別
石岡 浩司	身体障がい(視覚)
◎ 今田 雅子	身体障がい(肢体)
岡崎 勇二	身体障がい(肢体)
○ 岡本 直樹	身体障がい(肢体)
川崎 桃江	発達障がい、精神障がい
澤田 勝昭	身体障がい(視覚)
すぎやま けんいち	身体障がい(聴覚)
とがし あゆむ	精神障がい
なかね みどり	身体障がい(聴覚)
まつだ やすこ	知的障がい

50音順

◎は代表を、○は副代表をそれぞれ表す。

この報告書に対する意見などを書いてください

しょう しゃ 障がい者によるまちづくりサポーター制度 いけんていしゅつようし 意見提出用紙

(ふりがな) なまえ 名前		せいねんがっぴ 生年月日	ねん 年	がつ 月	にち 日
じゅうしょ 住所	〒 でんわ				
しょうめい 障がい名	※差し支えない範囲で書いてください (しゅ 種 きゅう 級)				
しせい いけん じゅう か (市政についての意見などを自由に書いてください)					

ていしゅつさき うらめん きさい
<提出先は裏面に記載しています>

ていしゅつさき
提出先

さっぽろしちゅうおうくきた じょうにし ちょうめ
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
さっぽろしほけんふくしきよく しょう ふくしか
札幌市保健福祉局 障がい福祉課

でんし めーる ふぁくす う つ
電子メールやファクスでも受け付けています

でんし めーる
電子メール shogai.fukushi@city.sapporo.jp
ふぁくす 011-218-5181

ほ む ペー じ
ホームページ

<http://www.city.sapporo.jp/shogai/fukushi/supporter/>